

# 甲虫ニュース COLEOPTERISTS' NEWS

No. 66 December 1984

## 日本産水棲甲虫類の分類学的覚え書, II\*

佐藤正孝

### Family Dytiscidae

#### ゲンゴロウ科

この科については、第二次世界大戦前に滝沢 (1932, '33) および神谷 (1938) がまとめており、戦後は中根 (1959~'65) がまとめてきた。しかしまだいろいろの問題があり筆者は折にふれて報告してきたが、ここでは原色甲虫図鑑, II (保育社) の出版とのかかわりもあって、早急に処置しなければならないことに限って覚えを書き留めておきたい。

#### *Hyphydrus japonicus*

SHARP

ケンゲンゴロウ

*Hyphydrus japonicus* SHARP, 1873, Trans. ent. Soc. London, 1873: 54 (Nagasaki, Hiogo). — SHARP, 1884, Trans. ent. Soc. London, 1884: 441. — RÉGIMBART, 1899, Ann. Soc. ent. France, 68: 215. — JAKOBSON, 1905, Zuki. Ross. zapadn. Env.: 419. — ZIMMERMANN, 1930, Koleopt. Rdsch., 16: 70. — KAMIYA, 1938, J. Tokyo Nogyo Daigaku, 5: 12. — KAMIYA, 1938, Fauna Nippon., 10(8-11): 36, fig. 35. — BRINCK, 1943, Kungl. Fysiog. Sällsk. Lund Forhandl., 13: 6. — ZAITZEV, 1953, Fauna USSR, 4(58): 109.

*Hyphydrus frontalis* SHARP, 1882, Sci. Trans. r. Dublin Soc., 2: 381 (Japan).

*Hyphydrus paramoecus* GUIGNOT, 1954, Rev. fr.

Ent. 21: 40 (Kioto). — MOUCHAMPS, 1959, Ent. Medd. 29: 4.

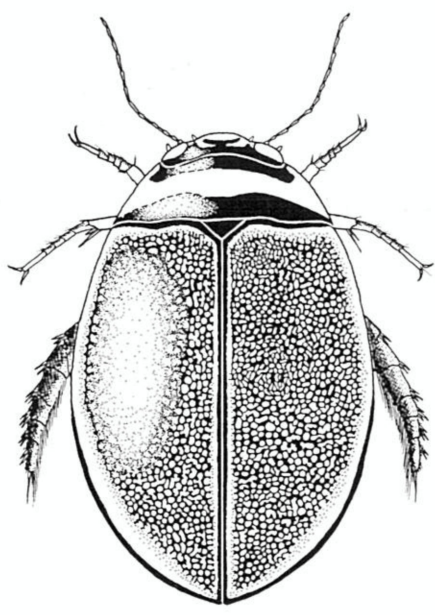
*Hyphydrus paramoecus*: GUIGNOT, 1954, Rev. fr. Ent., 21: 196. — NAKANE, 1959, Shin-Konchû, 12(1): 59.

*Hyphydrus eximius*: BALFOUR-BROWNE, 1944, Proc. r. ent. Soc. London, 13: 129. — HILNIKOVSKÝ, 1954, Acta Ent. Mus. Natn. Pragae, 29: 87. — MOUCHAMPS, 1959, Ent. Medd., 29: 3. — NAKANE, 1959, Shin-Konchû, 12(1): 59. — SATÔ, 1983, Aquat. Ins., 5: 163.

*Hyphydrus orientalis*: TAKIZAWA, 1933, Ins. Mats., 7: 168.

分布: 日本 (北海道, 本州, 四国, 九州)。

*H. japonicus* は、これまで BALFOUR-BROWNE (1944) による *eximius* のシノニムとする取り扱いが用いられてきたもので、SATÔ (1983) もその処置に従って *paramoecus* を後者のシノニムとした。いっぽう、BISTRÖM (1982) は *japonicus* と *eximius* の模式標本を再検討し、それらは別種であるとして *paramoecus* を *japonicus* のシノニムとした。筆者の報文と印刷が前後



*Graphoderus adamsii* (CLARK)  
マルガタゲンゴロウ

することとなったが、彼の論文では日本の文献がほとんど引用されていない。そこでこれまでの学名上の取り扱いを上記のように整理しておいた。

#### *Hydrovatus pumilus* SHARP

チビマルケンゲンゴロウ (和名新称)

\* M. SATÔ, Taxonomic notes on the aquatic Coleoptera of Japan, II

*Hydrovatus pumilus* SHARP, 1882, Sci. Trans. r. Dublin Soc., 2: 331 (Sumatra). —RÉGIMBART, 1891, Ann. Mus. civ. Stor. nat. Genova, (2) 9: 5. —RÉGIMBART, 1894, Ann. Soc. ent. France, 63: 339. —RÉGIMBART, 1899, Ann. Soc. ent. France, 68: 235. —VAZIRANI, 1969, Orient. Ins., 4: 100.

全体黄褐色で、背面は一様に細かく網目状となる。頭部は微かに点刻され、前胸背は細かく粗に点刻されるが、前縁に沿って横並びの点刻群がある。上翅はやや密にはっきりと点刻される。♂交尾器中央片の先端部は下方に急角度で折れ曲る。

体長: 1.8~1.9 mm。

分布: 琉球列島 (西表島); フィリピン, スマトラ, ジャワ, ベトナム, インド。

*Hydrovatus* 属に含まれる種は、もともと小型であるが、中でもこの種は一段と小さいので一見して他種と区別できる。インドからスダラ列島まで広く分布する種であるが、琉球で得られていた標本を新記録としてここに報告する。

検視標本: 2♂, Mitara, Iriomote-jima, 8. viii. 1962, M. SATÔ et Y. ARITA leg. (New to the fauna of the Ryukyus).

#### *Hydrovatus subtilis* SHARP

マルケシゲンゴロウ

*Hydrovatus subtilis* SHARP, 1882, Sci. Trans. r. Dublin Soc., 2: 329 (Siam). —SATÔ, 1972, Ann. hist.-nat. Mus. natn. Hung., 64: 146, fig. 3. *Hydrovatus confertus*, var. *subtilis*: RÉGIMBART, 1899, Ann. Soc. ent. France, 68: 237.

*Hydrovatus adachii* KAMIYA, 1932, Mushi, 4: 4, fig. 1 (Tokyo: Musashi). —KAMIYA, 1938, J. Tokyo Nogyo Daigaku, 5: 10, pl. 1, fig. 3. —KAMIYA, 1938, Fauna Nippon., 10(8-11): 32, fig. 32. —NAKANE, 1959, Shin-Konchû, 12(1): 61. Syn. nov.

*Hydrovatus* sp. SATÔ, 1961, Akitu, 10: 3.

分布: 日本 (本州, 四国, 九州, 琉球列島); 台湾, ベトナム, タイ。

この種は、従来日本で *adachii* として知られていたが、*subtilis* の模式標本と比較検討したところ同一種と考えられるので、上記のようにシノニムとして取り扱いたい。このことについては、すでに中根 (1959) が“シャムより記載された *H. subtilis* SHARP (印度産の *H. confertus* SHARP の変種とされている) の記載に一致する”とだけ述べていることを付記しておく。

#### Genus *Guignotus* HOULBERT

チビゲンゴロウ属

*Bidessus* (*Guignotus*) HOULBERT, 1934, Faun. Ent. Arm., Hydr.: 54.

*Guignotus*: GUIGNOT, 1945, Mem. Mus. Natn. Hist. Nat., 19: 226.

*Hydroglyphus* MOTSCHULSKY, 1853, Hydrocanth.

Russ.: 5 (nomen oblitum). Type-species: *Dytiscus geminus* FABRICIUS, 1792.

最近 BISTRÖM et SILFVERBERG (1983) は、*Guignotus* を古シノニムとして *Hydroglyphus* を用いるべきことを指摘しているが、約 130 年も使用されないままに放置されてきた遺失名と考えるべきであろう。*Guignotus* は記載以後すでに 50 年を経過し、安定した地位を確保しているので今更変える必要を認めないとするのが、この類の研究者の大勢の意見である。一部の研究者の間では、命名法国際審議会へ提訴し、強権発動をすべきとの動きもあり、筆者も一応従来のままに扱っておいた方がよいと判断している。

#### Genus *Liodesuss* GUIGNOT

チャイロチビゲンゴロウ属

*Bidessonotus* (*Liodesuss*) GUIGNOT, 1939, Bull. Soc. Ent. Sci. Nat. Vaucluse: 53.

*Liodesuss*: GUIGNOT, 1953, Rev. fr. Ent., 20: 110. Type-species: *Bidessus affinis* SAY, 1825.

つぎの日本産種は従来 *Bidessus* 属に入ると考えられていたが、この属に含めた方がよい。他の *Bidessini* 族に含まれる属とは、つぎの特徴によって区別できる。

両眼間の後方にそれらを結ぶ横刻線があり、上翅側片基部は窪みとならなく、頭楯前縁は縁取られない。

#### *Liodesuss megacephalus* (GSCHWENDTNER)

チャイロチビゲンゴロウ

*Bidessus megacephalus* GSCHWENDTNER, 1931, Wiener Ent. Anz., 11: 21 (Insel Koto sho).

*Liodesuss megacephalus*: BERTRAND, 1972, Larv. Nymph. Coleopt. aquat. Globe: 49 (larva). —BERTRAND, 1977, *Ibid.* Err. Add.: 6 (larva).

*Bidessus maculosus* GSCHWENDTNER, 1931, Wiener Ent. Anz., 11: 422 (Amoy).

*Bidessus tokunagai* KAMIYA, 1932, Mushi, 5: 5, fig. 3 (Kii: Seto). See SATÔ, 1964 for reference.

分布: 日本 (本州, 四国, 九州, 琉球列島); 紅頭嶼, 中国南部。

本種については、かつて SATÔ (1964) が詳しく報告したことがあり、幼虫も記載した。ところが BERTRAND (1972) はその幼虫の記載から判断してこの種が *Liodesuss* 属に入ることが述べている。その後成虫を検討してみると、なるほどこの属に入るので、今後はこれに含めて扱うべきであろう。

#### *Hydaticus* (*Guignotites*) *stagnalis*

(FABRICIUS)

オオシマゲンゴロウ

*Dytiscus stagnalis* FABRICIUS, 1787, Mant. Ins., 1: 191 (Germaniae aquis Dom).

*Hydaticus stagnalis*: STEPHENS, 1828, Ill. Brit. Ent. Mandib., 2: 85. —SATÔ, 1970, Bull. Jap. ent. Acad., 5: 14.

*Hydaticus transversalis*: KAMIYA, 1938, J. Tokyo Nogyo Daigaku, 5: 50. —KAMIYA, 1938, Fauna Nippon., 10 (8-11): 107, fig. 98. —NAKANE, 1964, Fragm. Coleopt. Japan., (3): 9.

*Hydaticus continentalis* BALFOUR-BROWNE, 1944. Ann. Mag. nat. Hist., (11) 11: 355. **Junior syn. object. nov.**

分布: 日本 (北海道, 本州北部); 樺太, シベリア, ヨーロッパ。

この種は旧北区のやや北方域に分布し, 日本近隣では樺太から記録されており, 日本 (北海道) から記録されたのは比較的最近のことで, SATO (1970) の網走産 1♀ に基づいたものである。しかし従来 *transversalis* とし記録されていた種はどれも *stagnalis* の ♂ であったと考えられる。記載を参照したり, ヨーロッパ産の標本を検査すると, 上翅両側の縦条紋と基部の横帯紋だけを有する個体が *transversalis* で, 上記の紋に加え数本の縦条紋を有する個体が *stagnalis* と同定できる。日本産の標本にそのことだけを単に充当させて処理されてきたため, 日本には 2 種ともに分布していることになっていたようである。それらの標本を詳しく検討してみると *transversalis* の紋に相当する個体はすべて ♂ で, *stagnalis* の紋に相当する個体はすべて ♀ であることが判った。そこでその種名としては, ♂ 交尾器, 前胸背後縁の黒横帯紋, 後腿・脛節の点刻, その他の特徴から *stagnalis* を充当させるべきであろう。

*H. transversalis* (PONTOPPIDAN) は, 後腿節の下面が細かく密に点刻され, 後脛節の下面は鮮明な縦点刻列の間に細い点刻を装うことで *Hydaticus* 亜属に入り, 前胸背の後縁に沿った黒横帯紋がより幅広くなる。

いっぽう, BALFOUR-BROWNE (1944) は *H. stagnalis* (F.) が *Dytiscus stagnalis* FOURCROY, 1785 (= *D. semisulcatus* MÜLLER, 1776) のホモニムとなるとして前者に *continentalis* なる置換新名を与えた。しかしその時点で, すでに両種ともにそれぞれ異なった属に含まれる種として取り扱われていたもので新名の必要はなく, *continentalis* は *stagnalis* (F.) の新参客観シノニムということになる。

#### Genus *Graphoderus* STEPHENS

マルガタゲンゴロウ属

*Graphoderus* STEPHENS, 1835, Ill. Brit. Ent. Mandib. Append.: 395.

*Graphoderes* THOMSON, 1860, Skand. Col.: 38.

*Graphothorax* MOTSCHULSKY, 1853, Hydrocanth. Russ.: 9.

Type-species: *Dytiscus cinereus* LINNÉ, 1785.

日本では長く属名に *Graphoderes* が使用されてきたが, *Graphoderus* を使用すべきことを BRINCK (1943) が指摘しているので, 後者を使った方がよいと思う。

#### *Graphoderus adamsii* (CLARK)

マルガタゲンゴロウ

*Hydaticus Adamsii* CLARK, 1864, Trans. ent. Soc. London, (3) 1: 211 (Coast of China). —SHARP, 1882, Sci. Trans. r. Dublin Soc., 2: 694, pl. 18, fig. 216.

*Hydaticus japonicus* SHARP, 1873, Trans. ent. Soc. London, 1873: 48 (Osaka, Hiogo).

*Graphoderes adamsi*: ZIMMERMANN, 1920, Coleopt. Catal., 71: 229.

分布: 日本 (本州, 四国, 九州); 朝鮮半島, 中国。この種の学名は, これまで *adamsi* が用いられてきた。しかし原記載を直接参照してみると *adamsii* となっているので, この機会に学名を正しておきたい。

#### *Acilius kishii* NAKANE, stat. nov.

ヤシャゲンゴロウ (和名新称)

*Acilius japonicus kishii* NAKANE, 1963, Fragm. Coleopt., (6): 26 (Imajō). —NAKANE, 1964, Fragm. Coleopt. Japon., (3): 11. —SASAJI, 1981, Bull. Hydrobiol. Fukui., (2): 8.

分布: 日本 (本州・福井県)。

本種はメスジゲンゴロウ *A. japonicus* BRINCK, 1939 の亜種として記載されたが, 体が小さくやや丸味を帯び, ♀ で上翅の幅広く浅い溝に細毛を欠くことなどから独立種として扱った方がよいと考える。詳細は別に原稿を用意しているので, それを参照されたい。

#### *Cybister (Meganectes) ventralis* SHARP

ヒメフチトリゲンゴロウ (和名新称)

*Cybister ventralis* SHARP, 1882, Sci. Trans. r. Dublin Soc., 2: 742 (India: Madras). —RÉGIMBART, 1899, Ann. Soc. ent. France, 68: 345. —VAZIRANI, 1968, Orient. Ins., 2: 296.

*Cybister gracilis* SHARP, 1882, Sci. Trans. r. Dublin Soc., 2: 742 (India).

*Cybister crassus* SHARP, 1882, Sci. Trans. r. Dublin Soc., 2: 743 (India: Sylhet).

後胸腹板および後基節の中央部は黒ないし黒褐色で周辺部および翼部は黄褐色。第 1 節のほぼ全体および第 3 ~ 6 節各両側の不明瞭な紋は赤褐色であるが, かなりの変異がありそれらの部分はより退化的となる場合がある。前・中肢の腿・脛節は赤褐色。後肢は黒色で, 腿節の先端約 1/3 および脛節の外方基部は幅狭く不明瞭に赤褐色となる。

体長: 31~32 mm。

分布: 琉球列島; ビルマ, インド, スリランカ。

種名としての *ventralis* の適用については, そのシノニムとされる *gracilis*, *crassus* とともに同一印刷物で記載されており, 先行頁での記載ということになれば *gracilis* が有効名となる。これら 3 種のシノニム関係を最初に扱った RÉGIMBART (1899) は *ventralis* を用いたが, それはおそらく *gracilis* が一段と小さい個体であることから *ventralis* を選定したものと推定される。この種名の適格性については, 最古参名および先行頁での優先が一応適用さ

## 日本未記録のコミズギワゴミムシ

根 本 圭 介

西表島で採集した歩行虫のうちに、本邦未記録のものと思われる コミズギワゴミムシ を見出したので、簡単に紹介しておく。本文に先立ち、懇篤なご指導を賜った上野俊一博士に心からお礼申し上げるとともに、文献に関してご援助をいただいた伊関峰生、稲岡 茂の両氏、また有益なご助言をいただいた笠原須磨生氏にも深く感謝する。

*Tachys yunax* DARLINGTON

ノコバコミズギワゴミムシ (新称)

*Tachys yunax* DARLINGTON, 1939, Mem. Soc. cubana Hist. nat. 13: 87.*Elaphropus yunax*: ERWIN, 1974, Proc. ent. Soc. Wash. 76: 137.*Tachyura* (s. str.) *serrulata* JEANNEL, 1946, Faune Emp. fr., Paris, 6: 356.

体長 2.25 mm。黄褐色で上翅中央部に暗色の横帯をそなえる、付属肢は淡色。前頭溝は単純、浅くて幅が広い；下唇基節には眼状孔がない；触角第2節は第3節とほぼ等長。前胸背板の基縁は前縁より幅広い；後角の縦隆は痕跡的。上翅側縁には鋸歯をそなえ、とくに肩部後方で明らかに認められる；条線は内方の3条が深く明瞭、あとは外方のものほどかすかになる；第8条は完全であるが第5丘孔点の前で浅くなる；翅端溝は直線状で第8条に接近し、外方を縦隆で限られる；背部の2孔点は第3間室にあり第3条に接する；亜端毛は翅端溝内側の後端よりある。爪には歯がない。

1♂、西表島 上原, 16. x. 1983, 筆者採集。

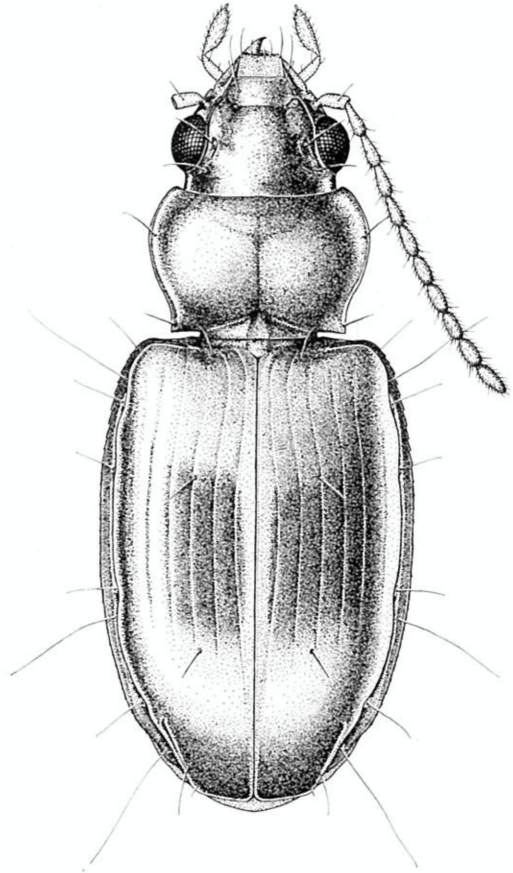
海岸近くに設置したブラックライトに飛来した。

本種は西インド諸島ヒスパニオラ島産の標本に基づいて記載された コミズギワゴミムシ で、現在ニューギニア、ミクロネシアおよび中南米の各所、アフリカ西海岸などに記録があり、マダガスカルおよびマスカレン諸島の "*Tachyura*" *serrulata* JEANNEL はシノニムとされている (DE MIRE, 1979)。既知の産地は、知り得た限りではいずれも沿岸あるいは海浜である。

近縁種にセレベス原産の *Tachys singularis* ANDREWES, 1925 があり、より小型 (1.75 mm)、前胸背板の前縁が基縁より広く、複眼はより扁平であるというが、両者の異同については疑問がもたれている (LOUWERENS, 1967)。また、検した 1♂ も、二、三の点において従来に記載 (DARLINGTON, 1939, 1962) と一致せず、再検討が必要だろうと考えられる。なお、下唇基節に眼状孔のないほかの邦産種とは、上翅側縁に鋸歯をそなえることにより容易に区別できる。

本種の分類上の位置については、これまでいくつ

かの見解が出されている。ANDREWES (1925) は *T. singularis* を *exaratus* 群に含めたが、DARLINGTON (1962) はこの扱いに反対して *singularis* 群を設けるとともに、翅端溝の位置は *umbrosus* 群 (= *Tachyta*) との関連を示唆すると述べ、また ERWIN (1978) は *yunax* 群を "*Elaphropus*" の中に認めている。しかし、一方では、ERWIN (1974) が "*Elaphropus*" のもとに一括した多くのグループおよび *Tachyta* の間の系統類縁関係がまだ明らかにされておらず、しかもいわゆる "*Tachyura*" の単系統性そのものが疑われているので、この問題に関しては、今後の研究にまつところが大きい。



追記：後日、笠原氏のご好意により、西表島産の個体をセレベス産の *T. singularis* と比較したところ、両者の間に明らかな差異が認められた。詳細については追って報告したい。(東京都新宿区)

○利尻島からのイタヤカミキリの記録

イタヤカミキリ *Mecynippus pubicornis* BATES は北海道から九州まで広く分布する種であるが、利尻島からの確実な採集例は知られていないようであるので、ここに報告しておくことにする。

1♀, 利尻島鴛泊, 31. vii. 1973, 大熊純採集。上翅の色彩がやや濃く、中央の白帯があざやかな個体である。標本を恵与下さった大熊 純氏にお礼申しあげる。(神奈川県横浜市, 高桑正敏)

○沖縄本島から新たに記録される甲虫 2 種

今年 (1984) 7 月 10~15 日にヤンバルテナゴコガネの調査のため沖縄本島を訪れたが、その際に採集した甲虫の中に沖縄本島未記録の 2 種があったので記録しておく。

1. ヒゲナガクシヒゲムシ *Callirrhapis formosanus* PIC, 1912。

1♂, 国頭村与那, 11. vii. 1984, 黒沢良彦採集;  
1♂, 国頭村西銘岳, 11. vii. 1984, 黒沢良彦採集。

2. タテスジハンショウ *Cicindela striolata* L-LIGER, 1800。

1♀, 国頭村与那, 11. vii. 1984, 黒沢良彦採集。いずれも燈火に飛来したものである。両種とも現在知られている産地は石垣島と西表島だけで、それ以北の記録がない。(国立科学博物館, 黒沢良彦)

○西表島のエンマムシ 2 種の記録

最近公表された久松定成氏による *Atholus* 属の檢索表 (久松・楠井, 1984, 越佐昆虫同好会々報 (57): 15-18) を用いて、以前笠原須磨生氏から恵与された西表島産の同属の 2 種を調べてみたところ次の様になったので報告しておきたい。末尾ながら貴重な標本を恵与された同氏にお礼申し上げる。

1. ムナクボエンマムシ *Atholus* (s. str.) *depiator* (MARSEUL)

2 頭, 西表島大原, 10. vi. 1979, 笠原採集。

本種の西表島からの記録はない模様である。

2. *Atholus* (*Euatholus*) *coelestis* (MARSEUL)

2 頭, 西表島大原, 10. vi. 1979, 笠原採集。

本種は本邦では同島からのみ知られるらしい。

(神奈川県綾瀬市, 西川正明)

○恐山のミズギワゴミムシ (ミズギワゴミムシ分布資料 6)

青森県下北半島の恐山を訪れた際に採集した種類をここに記録しておく。主に宇曽利山湖の水辺で得たものである。

青森県下北郡恐山, 5. vii. 1975, 筆者採集。

1. ニッコウミズギワゴミムシ *Bembidion misellum* HAROLD, 1 頭。

2. ヒメモンナガミズギワゴミムシ *B. thermoides* NAKANE, 3 頭。

既に青森県から知られているが現在のところ恐山が北限の記録と思われる。

3. キモンナガミズギワゴミムシ *B. scoplinum* (KIRBY), 1 頭。

4. オソレヤマミズギワゴミムシ *B. negrei* HA-

BU, 60 頭。

宇曽利山湖を原産地として記載された種であるがその後の記録は無いようである。しかし恐山では珍しい種類ではなく、硫化水素の臭いのする温泉の水辺で多数採集された。また松本俊信氏のご好意で青森県八甲田附近の温泉で採集された標本を検査することができた。やはり同様な環境にみられたという。

この様な環境では他の種類は全くみられず本種は生態的に特異な種類なのかもしれない。ご教示下さった松本俊信氏に厚くお礼申し上げる。

(東京都港区, 森田誠司)

○クロナガオサムシに現われた付属肢異常の 1 例

標本を整理中、クロナガオサムシ *Carabus* (*Lep-tocarabus*) *procerulus procerulus* CHAUDOIR の、下唇肢 (labial palpus) に異常の現われた個体をみい出したので、記録しておきたい。

♀, 山梨県塩山市柳沢峠付近 (標高 1,450 m), 11. vii. 1983, 筆者採集。

<特徴> 下唇前節 (palpiger) および下唇肢第 1 節は、下唇 (labium) 中央から癒合 1 体化して生じ、これに続く下唇肢第 2 節は中央部付近で 2 分し、各分岐先端には、正常個体のものよりも相対的にいくぶん小形な第 3 節を備える。小肥肢 (maxillary palpus) および小肥外葉 (external lobe) と小肥内葉 (internal lobe) の先端は、右側ではいずれも正常だが、左側の小肥肢は全体に発達が悪く小形であり、外葉と内葉の先端はひとつに癒合し、矮小化している。



本例は、遠山 (1984)\* のいう「左右付属肢ゆ着型」であり、同報告、図 16 のアカガネオサムシ *C. granulatus telluris* と同例の異常型であるが、下唇肢第 2 節先端から第 3 節へかけての分岐・発達により明瞭である。

なお、標本は遠山雅夫氏に保管をお願いした。

\*遠山雅夫 (1984) 甲虫に現われた付属肢異常、触角と脚の相同部位について。月刊むし (151): 17-24. (埼玉県浦和市, 平山洋人)

## ○四国産ゴミムシダマシ類の記録

今年 (1984) の 7 月下旬から 8 月上旬にかけて、四国地方でゴミムシダマシ類の調査をおこなった。この時の採集品のなかに、未記録または記録の稀なものがあったので報告する。

1. オオモンキゴミムシダマシ *Diaperis niponensis* LEWIS, 1 頭, 愛媛県河内谷, 28. viii. 1984, 四国新記録。個体数が少ない種なので発見が遅れ、記録がなかったものと思われる。

2. フタモンツヤゴミムシダマシ *Scaphidema ornateillum* LEWIS, 1 頭, 高知県三嶺山, 1. viii. 1984。すでに木内 (1971) はより剣山からの報告がある。三嶺山は剣山に連なり、頂上付近には広いブナの原生林がある。

3. クロズハマベゴミムシダマシ *Epiphaleria atriceps* LEWIS, 33 頭, 徳島県徳島市中洲海岸, 21. vii. 1984; 2 頭, 高知県大町浮鞆海岸, 29. vii. 1984; 9 頭, 高知県土佐清水市下の加江浜, 31. vii. 1984。海浜性の種で、砂浜の後方にある海水のかからない海岸堆積物下に見られる。背面の黒色紋は変化が多い。宮武 (1973) により徳島県鳴戸市大毛島からの報告があるが、今回の記録は太平洋側では初めてのものとなる。

## 参考文献

木内盛郷, 1971. 剣山県民の森総合学術調査報告書: 171. 徳島県。  
宮武睦夫, 1973. 本州四国連絡架橋に伴う周辺地域の自然環境保全のための調査報告書 学術調査編 動物部門: 189. 国立公園協会。

(千葉県市川市, 山崎秀雄)

## ○長野県鉢盛山で採集したチビシデムシ (チビシデムシ分布資料 3)

本年 (1984 年) の 8 月 6, 7 日に鉢盛山でチビシデムシの採集を行ったが、従来記録の少ないものも得ることができたので報告しておきたい。すべて腐肉トラップで、1 週間程前から標高約 1,600~1,900 m の範囲に設置されたものである。本科甲虫が来集していたのは約 1,700 m より上方であった。トラップを設置され、ご案内をいただいた藤谷美文氏、ご論著のコピーをいただいた中根猛彦博士に厚くお礼申し上げたい。

採集地: 長野県東筑摩郡朝日村鉢盛山

1. アルプスコチビシデムシ *Sciorepoides al-*

*pestris* JEANNEL, 1♂: 本邦からの最初の記録は KAMIMURA, NAKANE, KOYAMA (1964) による長野県常念岳で、その後の報告はないようである。

2. カバイロコチビシデムシ *S. fumatus* (SPENCE), 7♂♂ 10♀♀

3. *Sciorepoides* sp., 1♂: 雄交尾器はムネグロコチビシデムシに似るが、パラメラは長く、前脛節は先端に向い大きく広がり、前跗節の爪節は、キョウトコチビシデムシのように肥大し、内側の爪はかなり小さい。未記載種と思われる。

4. ハラトゲチビシデムシ *Catops luridipennis* MANNERHEIM, 3♂♂: 日本からの最初の記録は、SZYMCAKOWSKI (1975) による長野県中房、山梨県広河原産で柴田泰利氏の採集品である。

5. ミヤマチビシデムシ *C. sparsepunctatus* JEANNEL, 52♂♂ 33♀♀

(神奈川県座間市, 西川正明)

## ○ミナミカワクモリヒラタゴミムシ富士山の記録

ミナミカワクモリヒラタゴミムシ *Agonum minamikawai* HABU は、原産地の静岡県安倍峠と山梨県二軒小屋のほか、山梨県北岳、同県大菩薩、東京都奥多摩からも記録されている。筆者の手元にも下記の採集品があるので報告しておく。

1♀, 山梨県富士山富士林道, 18. vi. 1978, 伊藤淳採集。

貴重な標本をご恵与くださった伊藤 淳氏に厚くお礼申し上げる。(神奈川県川崎市, 田尾美野留)

〈原稿募集〉 編集者多忙のため、発行が大幅に遅れましたことをお詫び申し上げます。次回より、期日通りに発行させるよう努力いたしますのでご諒承を願います。つきましては、原稿が不足しておりますので、なるべく多くの短報をお寄せ下さるようお願い申し上げます。(編集部)

## 甲虫談話会

会費 (一ケ年) 2000 円, 次号は 3 月下旬発行予定。

投稿〆切は 2 月 28 日

発行人 黒沢良彦

発行所 甲虫談話会 東京都台東区上野公園

国立科学博物館動物研究部内

電話 (364) 2311, 振替東京 0-60664

印刷所 創文印刷工業株式会社

## タツミの昆虫採集器具

ドイツ型標本箱 木製大 ¥5,000, 桐合板製インロー型標本箱中 ¥1,700, 送料一箱につき都内及第一地帯: 3 個以下 ¥1,300, 4 個以上 ¥850 (以下同様), 第 2 地帯 ¥1,500, ¥950, 第 3 地帯 ¥1,700, ¥1,050, 其他, 各種器具, 針などを製作販売しています。カタログを御請求下さい。(¥60)

## タツミ製作所

〒113 東京都文京区湯島 2-212-25  
電話 (03)811-4547, 振替 6-113479

## 昆虫の器具は「志賀昆虫」へ

日本ではじめてできた有頭昆虫針!!

1, 2, 3, 4, 5 号 (各号 100 本 180 円)

なお、有頭針 00, 0 号もできました。その他、採集、標本整理用各種器具も取揃えてあります。

〒150 東京都渋谷区渋谷 1 丁目 7-6

電話 (03) 409-6401 (ムシは一ばん)

振替 東京 21129

志賀昆虫普及社